

鳴門海峡の風景を、昔の人はどんな風に見ていたのか？



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ 大平 和弘

■鳴門海峡のうずしおを世界遺産に

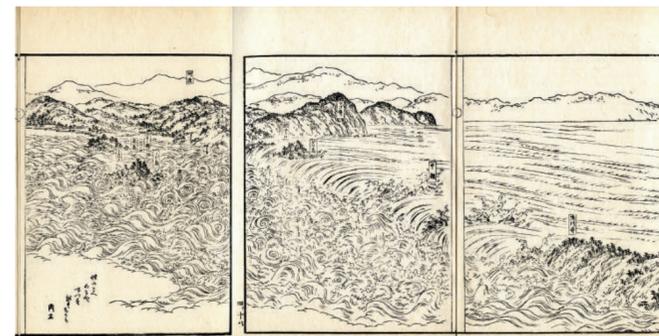
兵庫県淡路島と徳島県の間にある鳴門海峡では、世界的にめずしい自然現象である「うずしお」が発生します。このうずしおを世界遺産に登録して守っていくため、調査を進めています。

■浮世絵や絵画に描かれた「鳴門海峡」

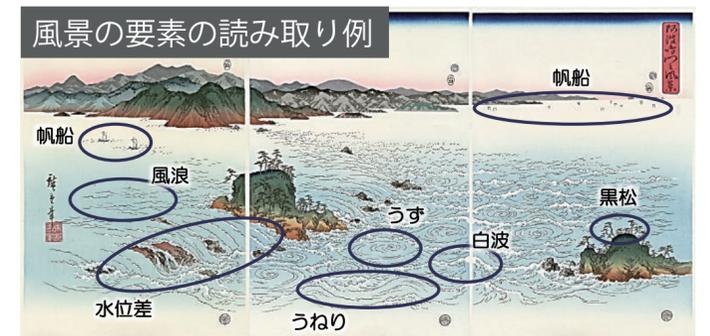
では、昔の人は鳴門海峡の風景を、どんな風に見て美しいと捉えていたのでしょうか？

江戸時代(1735年)～50年前(1969年)に描かれた鳴門海峡の浮世絵や絵画を56点集めて調べました。

描かれた要素をみると、「うず」以外に「島」や「岬」「岩」のほか、「白波」や潮汐により海面にできる「水位差」, 「黒松」などが多く描かれ, 人工物では「帆船」や「木船」も昔の人に好まれていたことがわかりました。これらの要素は, 鳴門海峡の風景の美しさに無くてはならないものとして守っていく必要があるといえます。



暁鐘成「淡路國名所圖繪」部分 人と自然の博物館蔵



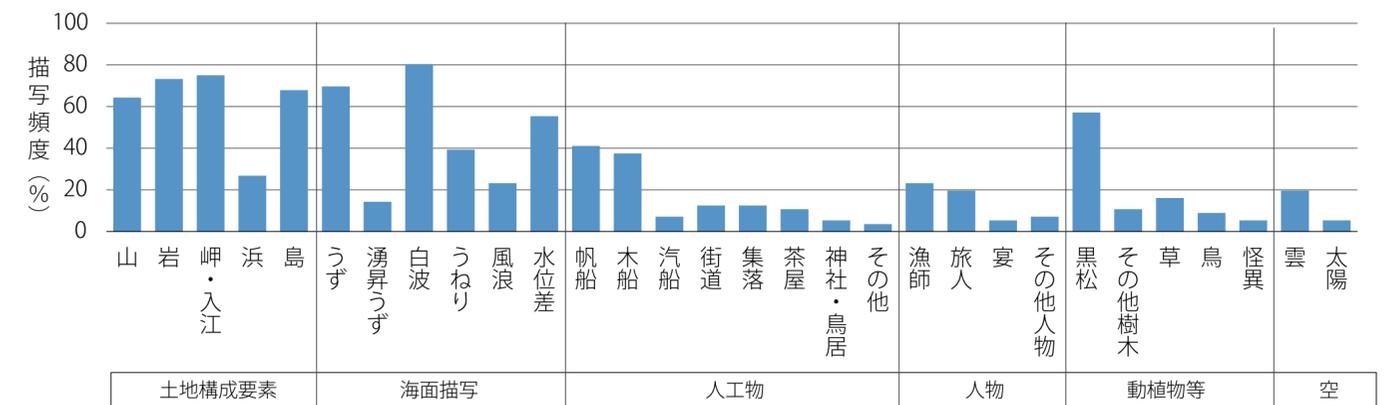
歌川広重「阿波鳴門之風景」複製 人と自然の博物館蔵



船から見た現在の鳴門海峡のうずしお



歌川広重「六十余州名所図会」複製 人と自然の博物館蔵



浮世絵や絵画に描かれた風景の要素ごとの描写頻度